

■令和4年3月（次）定例記者会見内容

- 1 日 時 令和4年2月25日（金）11:00～11:40
- 2 場 所 市役所本庁舎3階第一委員会室
- 3 出席者 ○市長、総務部長、企画部長、地域創生部長、地域医療調整監、
危機管理課長、企画調整課長、商工港湾課長、健康課長、
市長公室長
○酒田記者クラブ9社（朝日新聞、読売新聞、河北新報、
山形新聞、荘内日報、NHK、YBC、YTS、SAY）

■市長発表事項

- ・特になし

■代表質問

1 洋上風力発電について

記者／洋上風力発電の酒田検討部会が設立されました。議論を進める上で市長はどのような点を重視されていますでしょうか。

市長／2月10日に第1回目の酒田部会が開催されたということで、新聞でも報道されておりまして、所管課からも報告を受けていたところでございます。

基本的に洋上風力を進めてくださいということについては、酒田市としては、酒田港の基地港湾の指定ということを前提としながら、いずれも事業の主体になります山形県に対して、進め方の促進について要望してきた経緯があります。

そういったことを踏まえると、コロナ禍で少し立ち上げが遅くなったかなという感じはありましたけども、順調に前に進んでいるということについては喜ばしく受け止めております。

そうした中で、この検討部会でどういう議論が進むのかなということについても、私は非常に期待しているところなんですけど、再生可能エネルギーが、これからのエネルギー政策上、日本の国策としても必要だということについては、改めて言うまでもない大前提であろうかと思いますが、その上で、この酒田部会で酒田沖の洋上風力を進めるにあたって、これから協議が進められるということになりますけれども、4点注視していきたい。

報道でも言われていますけども、一つは、その想定海域、どのエリアに風車が並ぶのかということ。

それからもう一つは、それが地域の環境、自然環境とか景観とか、そういったものに与える影響、課題というのはどういうものがあるのかということ。

それから三つ目が、ある意味、海というのは漁業者の生業の場ですので、漁業者の皆さんへの影響、それから、そういった漁業者の皆さんに対する様々な支援施策についてどういうものが考えられるのかということ。

そして4点目としては、洋上風力が、そこに整備されることによってこの酒田エリア、

酒田地域、遊佐もそうですけれども、この北庄内地域にどういった地域振興というメリットが出てくるのか。

このあたりをこの部会の中で、どのような議論が整理されるのか、これを注視して見ていきたいなと思っております。

特に私は、遊佐沖の関係でも議論されているようですけれども、陸上からどのくらいの距離にどのくらいの大きさの風車がどのくらい並ぶのかということ。これはやはり、ちょっと注視していきたいなと思います。

その辺のところの議論が検討部会でどのように詰まっていくのか、その辺を少し注目して見ていきたいなと、このように思っております。

漁業協調策検討会議という場も設置をされるというふうに伺っておりますので、特に漁業者の皆さんとの協調というのがどのように進むのか、これについても非常に重く私は受け止めているというところでございます。

2 市立中学校の生徒が自死した問題について

記者／酒田市内の中学校の女子生徒の自死から、今月 12 日で一周忌となりました。市長は命日にどのような形で弔意を示されたでしょうか。

市長／公式の形で、それから対外的に発信する形では、特に弔意という形での行動は、控えさせていただきました。

教育委員会の方で現在対応委員会を中心に調査中だということもあって、表立った行動としては控えさせていただいたところでございます。

ただ、個人の思いとしては、お子さんを亡くされたご家族の皆さんのこの 1 年間の苦しみっていうのは、やはり大変だったろうなというふうに思っておりますし、記者の皆さんもご存知の通り、中学校が私の自宅から目の前です。12 日が土曜日だったと思いますが、傍を通ったので心の中で手を合わせてご冥福をお祈りした次第でございます。

公式には表立って対応は、控えさせていただきました。

3 市内のワクチン 3 回目の接種状況について

記者／酒田市内の新型コロナウイルスワクチンの 3 回目の接種状況、予約状況は、現時点でどのようになっていますでしょうか。

市長／お手元に資料を 2 枚ほど、資料 1 と資料 2 を準備させていただきましたので、それを見ながら、ご説明をさせていただきたいなと思います。

本市の 3 回目のワクチン接種につきましては、1 回目、2 回目同様に、地区の医師会十全堂、それから歯科医師会、薬剤師会、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構から協力をいただいて、市を挙げて取り組んでいるところでございます。

資料の 1 をご覧いただきたいと思っております。

これは、2 月に入ってからの接種人数と接種率の推移を 1 週間置きに整理した表になっております。

直近の 2 月 22 日現在の数値ですけれども、65 歳以上の方の接種者数、1 番目の表のピンクのところをご覧いただきたいと思っておりますけれども、65 歳以上の方の接種者の数は 1 万 2,362 人で、接種率が 34.3%。

それから18歳から64歳までの方、これは黄色のところをご覧いただきたいと思いますが、接種者が5,286人で、接種率が10.3%。

全人口に対する接種者数は、表の一番下のブルーのところをご覧いただきたいのですが、1万7,648人で、接種率は17.6%となっております。

実は、2月からは一般高齢者の接種も始まっております、2月1日からは個別接種、それから2月12日からは集団接種を開始しているところでございます。

酒田市の場合は、酒田市独自の判断で2月7日からは、年齢関係なくすべての対象者の2回目接種からの間隔を6ヶ月に短縮しまして、その上で2月18日までに、2月末までの接種対象者約4万8,000人なのですが、これは昨年8月までに2回目接種を終えた方、すなわち6ヶ月の間隔が開けた方になりますけれども、その方々全員に接種券の送付を完了しているところでございますので、これから集団接種、個別接種で接種をされる方が増えてくるものと期待をしております。

それで3回目のワクチン接種の予約状況について少しご説明したいと思います、資料の2をご覧いただきたいと思います。

本市では、国からのワクチン供給量を踏まえまして、集団接種ではモデルナ社製のワクチンを、それから個別接種では、接種対象者の多い一部の医療機関ではモデルナ社製を使いますが、その他の医療機関ではファイザー社製のワクチンを使用しているところでございます。

ファイザー社製は、一つのボトルから7人分取れるということ。それから、モデルナ社製は一つのボトルから15人ないし20人分を取れるということですから、そういう意味で接種対象者の多いところは、ワクチンが無駄にならないように、モデルナ社製のワクチンを打ってもらっていますし、集団接種もモデルナ社製のワクチンを打っております。集団接種についてでございますけれども、この上の方の表をご覧いただきたいと思いますが、2月24日の午前9時現在で接種を終えた日と、現在予約を受け付けている日の合計で、予約枠1万4,900人分に対して、予約数これにはもう接種を終えた方もいらっしゃると思いますが、予約者数は9,188人で、予約率は61.7%となっております。

従って予約枠には達していないという状況が、この表から見て取れると思います。次に個別接種でございます。

下の方の表に移りますが、個別接種につきましては、自分の医院で直接予約を受け付けている医療機関の予約状況というのは、実は把握できていないんですけども、いくつかの医療機関に伺ったところでは、2月分の予約はもう既にいっぱいになっておりまして、3月分もかなり進んでいるということでもございました。

かかりつけ患者以外の方への接種分に協力をいただき本市の予約システムで管理している9つの医療機関の予約状況についてはデータがありますので、それが下の方の表なのですが、この9つの医療機関での予約状況は、2月と3月を合わせた合計で、ファイザー社製枠の予約率は98.5%、それからモデルナ社製枠でも70.4%となっております。このように全体の傾向としては、個別接種の予約が進んでおりまして、集団接種の方の予約は低調であるかなとこんな見方をしております。

その要因でありますけれども、やはりどうしても感情として、1回目、2回目に接種したワクチンと同じファイザー社製のワクチンを希望される方が多いのかなあということ。それから、高齢者はかかりつけ医での個別接種をする希望される方が多いだろうということ。それから、特に高齢者でございますけれども、今回のこの冬の雪、積雪、これによりまして、平田の集団接種会場に非常に行きづらさを感じている方が多分多いので、出足が悪いのかなあということ、そういったことなどが原因となってこのような数値として表れているのかなと思いますけれども、3月に入って、今週、今日あたりから暖かい日が続いて、雪も解けてくるだろうということが想定されますので、おそらく集団接種を希望される方が増えてくるのではないかなあということを期待しております。

酒田の場合は、6ヶ月後に3回目の接種OKということで接種券を発送しておりますので、そういう意味では64歳以下の方の接種がこれからどんどん進むのではないかなと、このように思っております。

市民の皆さんには、まん延防止等重点措置の地域は外れたわけでございますけれども、地域医療体制の崩壊を防ぐとともに、本市の経済活動を活性化させるためにも、このワクチンの接種を希望している市民の皆さんには、1人でも多く早めへの接種をぜひお願いをしたいなと、このように考えているところでございます。

記者／市長ご自身は、3回目接種されましたでしょうか。

市長／私は高齢者でもあって基礎疾患もありますので、2月16日の日に個別接種で接種をさせていただきました。

やっぱり翌日ちょっと熱が出まして、少し休養を取らせてもらいましたけど、何事もなく、このように日常の活動できていますので、ぜひ皆さんからは、希望する方は、ぜひ接種を早めにしていただきたいなと思います。

特に、集団接種の予約枠は、まだ余力がありますので、ぜひ予約をしていただいて接種していただけたらなと、このように思っております。

4 東日本大震災から11年目を迎えるにあたって

記者／東日本大震災から来月11日で11年目。3月中に或いは今後、市として防災や津波に対する訓練を実施される予定がございませうでしょうか。

市長／特に東日本大震災に合わせて3月11日に何かをするという予定はないんですけれども、例年酒田の場合は、酒田市の大火があった10月29日に防災訓練をやっておりますが、昨年の令和3年度は宮野浦地区、十坂地区を中心に、津波避難訓練を実施する予定だったんですが、コロナ禍で中止としたところでございます。

来年度、令和4年度でありますけれども、総合防災訓練を10月29日に、これも酒田市の大火があった日ですが、実施を予定しております。

令和4年度については、災害時における関係機関、国や県や気象庁、それから自衛隊などの関係機関との連絡、連携の体制だとか、情報共有のあり方を重点的に訓練したいなと、このように考えておりますし、あわせて、コロナ対策に対応した避難所の運営方法についても、住民向けの動画を作成して配信するなど検討していきたいと、このように考えているところでございます。

やはり訓練は、やってこそ身につくものですので、令和4年度は、ぜひとも中止することなく実施していきたいと、こんな思いを強く持っているところでございます。

■フリー質問

1 ウクライナ情勢について

記者／お答えいただける範囲内でいいんですけれども、ロシアとウクライナの問題に関して、酒田市もロシアの二つの市と交流していると思うんですけれども、まだちょっと始まったばかりというか、なかなか影響とかもまだ見えづらいと思うんですけれども、現時点で影響が出ているのかどうか、そして市長ご自身が今の状況をどう受け止めておられるかお聞きしたい。

市長／今回のロシアのウクライナ侵攻については、大変由々しき問題だと思っております。国際法に反する行動だということで全世界が非難をされておりますけれども、私も全くその通りだなと、このように思っております。

そういう前提に立ってですが、ご指摘の通り、酒田は、姉妹都市にジェレズノゴルスク・イリムスキー市、そして交流している都市としてはサンクトペテルブルク市がございません。

経済交流をされている方もいらっしゃるわけございまして、そういう意味では、今回のロシアへの経済制裁等が何らかの影響をするだろうという感想は持っておりますので、そういう面ではちょっと心配をしております。しかしながら、これはやむを得ないのかなとそういう認識で、現在捉えておりますけれども、昨日の今日の話なんで、具体的にどういう経済交流上の影響が出ているかというところは、まだ検証できておりませんが、こういった状況が長引けば、おそらく経済交流だけでなく、その姉妹都市交流ですとかにも何らかの影響が出てくるだろうということで非常に心配をしているという状況でございます。

2 陸羽西線について

記者／陸羽西線の件で、2年間ほど運行が止まるというような話があったんですけれども、国交省の方で事前に沿線の組長さんにも意向を聞いて説明をしたという話だったんですが、市はどのような意向をお伝えしたのかということと、今まで計画になかったような話だと思うんですけど、どのように市として結論を出しているのか、何か市として対応とかはあるのでしょうか。

市長／特に市としての対応というのはございませんけれども、いわゆる国道47号、新庄酒田の地域高規格道路の整備促進に係る工事関連でということになるわけでありまして、これは致し方ないなということです。

工事の安全、それから鉄道輸送の安全を考えた場合には、これは致し方ないなというふうに理解をして、国土交通省さんには了解しましたということでお伝えをさせていただきました。

ただ、通勤、通学、或いは何らかの形で行き来をされる方もいらっしゃる訳で、そこはバス代行ということでございましたので、そういった方々に不便をきたさないような対

応に十分配慮をお願いいたしますということで、それも講じていただけるということで、まずは今回の陸線の運休については致し方ないだろうと、このような理解をさせていただいております。

3 市立中学校の生徒が自死した問題について

記者／女子中学生の自死の件に関して、1年が過ぎたということで、改めてなんでも、市長の考えとして、教育現場でこれから同じようなことが繰り返されないためにも、どういったことが必要になってくるのか、どういったことが理想なのか、この1年の経過を見て、市長ご自身の何かちょっと考えていることがありましたら、改めてお願いします。

市長／やはり今回の出来事について思ったのは、児童・生徒の悩みだとか、そういった思い詰めた気持ちに対して、周辺の大人が何とかこう支えになってやれなかったのかということについては、本当に悔しいし、ご両親をはじめご家族の皆さんの思いは如何ばかりかなということで、本当に残念に思っております。

そういったことを前提として、今後どうあるべきかということについては、やはりそういった悩みだとか思いに対して、しっかり寄り添えるような教育現場、そして教育現場だけでなく、我々行政もそういった方々を支えられるような体制をしっかり作っていかないといけないのかなと、そういう思いを持っております。

ちょうどここに来る前に、国会の参議院の審議をちょっと私見てきたんですけども、その子供たちを取り巻く環境を支える、サポートする体制として、教育現場だけでなく、国で今進めようとしているこども家庭庁、こういったところでもしっかりサポートできるような、子供たちの命を地域全体、社会全体で守っていけるような体制、仕組みづくりというのが、やはり急務ではないかなと思います。

そういう意味では、先ほど申しました国会の中でも、こども家庭センターというものをやっぱり作っていく必要があるのではないかという話も出ておりましたけども、まさに、それは国の話だけでなく、この地域においても同じようなことが言えるのかなと。

子供、家庭をめぐる様々な悩みに対応できる相談機関ですとか、或いは様々な支援措置を講じられるような子供家庭センターみたいな機能がこういった地域にも必要だし、そこも教育現場と一体となって、子供たちを守り育てる、そういう体制を作っていくという必要があるなということを改めて感じ取れたこの1年だったかなとこのように思っております。

対応委員会の調査結果を踏まえて、そこにはご家族のご意見も付されるということもありますので、前も記者会見でお話しましたが、その段階で、しっかりご家族の皆さんの声を私もお聞きしたいなと思いますし、それを踏まえて、次の市としての行動とか、取り組み等がもし出てくるとすれば、しっかりそれを踏まえて取り組んでまいりたいと思っております。

■その他

・特になし